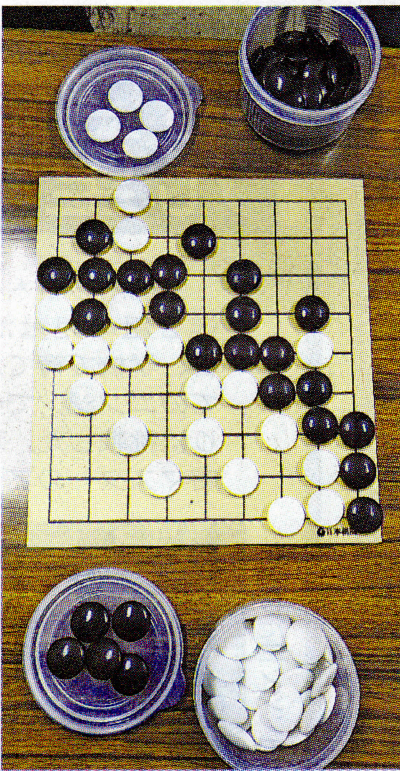


大人女子が 囲碁始めました

下

大人女子のための囲が黒番、竹内瑛子さい、碁教室2日目。残り1人、記者チームが白番ながら打っていく。9路盤で2対2の「ペア碁」をすることに。

じゃんけんで組み分けし、斎藤美佳子さん、高木香緒里さんチーム



ペア碁に挑戦!

を持った。

「この陣地を広げたら…」 「ここに置いたら石を取られるから…」 など口にしなが、正式なペア碁と違人は一手中ごとに一喜一白。いつかおじいちゃんと一緒に盛り上がりを見せ、互らと声を弾ませた。

いに打つ所がなくなり、ただ、せつかく覚えた囲碁を継続したくて

陣地意識し 数手先読む

途中、アタリ連続 高木さんは「見た目で

取った相手の石は黒も、有段者が多い碁会

7(盤上の死石3を含所に通うのはハードルむ)に白5。それぞれが高い。斎藤さんは相手の陣地に埋め、白「初心者が打てる機会にコミ6目半(先番のがあれば。本当の大き黒が有利なので白に与さの碁盤(9路盤)にえるハンディ)を加えたどり着くまでは道が陣地を数えると黒が長い」と話す。

実戦初の記者には最戦が上達の近道なのだ初、陣地づくりは感覚と改めて思った。に訴えるものがあり抽 こんゆ二段に「陣地象的に感じた。しかしをつくるイメージがで「相手の石を狭い方にきている」と太鼓



大いに盛り上がったペア碁

小一時間かけたペア碁の終局図。盤上部が黒、下部が白の陣地になった。取った相手の石をそれぞれ相手の陣地に埋めて交点を数えると、黒21目に白11目。白にコミ6目半を加え、21目-17目半で黒が3目半勝ちした

が増えただけで、くっ「来年は初心者が集えと深い対局になった。る時間帯を提供したスのおかげで、徐々にに楽しみ、その魅力に局後の第一声は全員い」と、初心者も訪れや目的を持った一手を打ふれた4時間であつてるように。何より実た。(工藤瑠美子)